

「ホワイト物流」推進運動

持続可能な物流の実現に向けた自主行動宣言

企業・組合名	役職	氏名	所在地	主たる事業	ホームページ
アサヒビール株式会社	代表取締役社長	塩澤 賢一	東京都	製造業	https://www.asahibeer.co.jp/

当社は、「ホワイト物流」推進運動の趣旨に賛同し、以下のように取り組むことを宣言します。

最終更新:	2019.7.1
-------	----------

(取組方針)

・事業活動に必要な物流の持続的・安定的な確保を経営課題として認識し、生産性の高い物流と働き方改革の実現に向け、取引先や物流事業者等の関係者との相互理解と協力のもとで、物流の改善に取り組めます。

(法令遵守への配慮)

・コンプライアンス遵守を大前提とし、法令違反が生じる恐れがある場合の契約内容や運送内容の見直しに適切に対応するなど、取引先の物流事業者が労働関係法令・貨物自動車運送事業関係法令を遵守できるよう、必要な配慮を行います。

(契約内容の明確化・遵守)

・運送及び荷役、検品等の運送以外の役務に関する契約内容を明確化するとともに、取引先や物流事業者等の関係者の協力を得つつ、その遵守に努めます。

No.	分類番号		取組項目	取組内容
1	A	①	物流改善提案と協力	着荷主と連携し、製品の納品・荷受けの仕組みをWIN-WINで効率化し、待機時間や附帯作業の削減に取り組めます。
2	A	⑧	出荷に合わせた精算・荷造り等	トラックの場内滞留時間を短縮し、生産性を向上するために、自動倉庫やトラックローダーなど、物流マテハンを積極導入して、物流拠点の出荷能力や積卸しスピードの向上を図ります。
3	A	⑩	配送リードタイムの延長	着荷主の理解を得て配送リードタイムを延長し、ドライバーや構内作業の夜間作業への依存型から日中作業、日中・定時運行体制へ変更し、物流労働環境の改善を図ります。
4	A	⑪	高速道路の利用	積極的に高速道路を利用する輸送効率向上モデルを構築し、トラック稼働率の向上を推進します。
5	A	⑭	船舶や鉄道へのモーダルシフト	同業他社や異業種、物流事業者と連携し、鉄道や船舶、その他高効率モビリティを活用して、モーダルシフトを促進します。
6	A	⑯	検品水準の適正化	輸送中の荷ずれ、荷崩れなどに伴うダメージ品の判断基準をより合理的かつ、運送会社の負担を提言した、納得性が得られる基準に見直します。
7	A	⑰	物流システムや資機材の標準化	RPAや先進ITツール等を活用し、輸送を支える物流システムや間接作業の標準化・自動化・省力化を進めます。
8	F	①	地産地消ロジスティクス体制の推進	グループ内で連携し、地産地消比率を向上させるなど、グループ全体の物流量を低減するロジスティクス体制を推進します。
9	F	②	静脈物流の効率化	パレットや空容器の回収など、静脈物流の効率化に向けて、業界と連携して取り組めます。
10	F	③	中計物流拠点の設置	長距離トラック運行を削減するために、遠距離の納品エリアに中継物流拠点を設置し、配送距離の短縮、在庫の事前送り込みによる物流平準化を行います。

PR欄	別紙『アサヒビール社の物流改善取組み』参照
-----	-----------------------